

会 議 議 事 録

会 議 名	平成30年度 第1回 学校関係者評価委員会	専門学校 東京工科自動車大学校
開催日時	平成30年7月4日 (水) 18時～20時	
会 場	専門学校 東京工科自動車大学校 123教室	
参 加 者	委員 (敬称略)	7人 (参加者：6名) 浅古純一・田中広美・田中洋子・沼田勇・ 北澤聡・伊藤昭義 (植草賢治代理) (欠席：1名) 佐々木洋文
	事務局	3人 山口泰之・澁谷健・市川隆由
会 議 録	<p>1. 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長の山口より平成30年度の組織変更について説明があった。 ・続いて、本学校関係者評価委員会開催に向けての挨拶ならびに本学における指針や取り組み等について説明があった。 <p>2. 委員、事務局メンバーの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より平成30年度委員および事務局メンバーについて説明し確認がなされた。 会則第5条の2に基づき、出席者が委員総数の過半の出席を満たしているため本委員会が成立していることを確認した。 ・続いて各委員からの自己紹介ならびに挨拶が行われた。 <p>3. 学校関係者評価委員会の議長、書記選出</p> <p style="padding-left: 20px;">議長に委員長の浅古純一氏、書記に田中広美氏が選任された。</p> <p>4. 議事</p> <p>①第1号議案：前回議事録の確認【資料A】</p> <p style="padding-left: 20px;">事務局より、資料A「平成29年度第2回学校関係者評価委員会会議議事録」に基づき前回議事に関して概略説明を行い議事内容についての確認がなされ、承認された。</p> <p>②第2号議案：平成29年度自己評価報告の評価結果について【資料C】</p> <p style="padding-left: 20px;">事務局より資料C「平成29年度自己点検評価結果」に基づき概略が説明され、委員から評価結果について承認を受けた。</p> <p style="padding-left: 20px;">なお議長の浅古氏からは留学生を取り巻く環境変化や期待感、課題等が寄せられ、事務局（山口、澁谷）から本学における留学生の現状等について説明がなされた。</p>	

(各委員からの意見)

田中洋子氏：これまでも留学生には地域貢献してもらっている。

伊藤氏：留学生の漢字や読み書きについてはどの程度であるか？

山口：どうしても漢字に弱い傾向はあるが、入学直後に較べ徐々にスキルアップして
いっている。更なる会話でのコミュニケーションアップを望むところである。

③第3号議案：平成29年度事業計画、実績報告【資料B】

事務局より平成29年度事業計画に基づき、その実績報告（教職員研修、就職状況、資格取得）と平成30年度入学者数について報告がなされ、承認された。

・H29年度の教員研修について：資料B別表の通り

・H29年度就職内定率について：就職希望者に対して100%内定獲得

・H29年度の整備士国家資格取得結果について：

一級小型が大変厳しい結果となった。結果に対しては課題と改善を持って取り組みたい旨、説明があった。

二級については、わずかに100%達成とはならなかった。

・H30年度入学者数について：

事務局より募集結果に基づき各科の入学状況および在籍人数について説明があった。

本議題に関し山口からは

1級科の落込みが大きかったこと（一昨年と同レベル）

それは大学への進学傾向が一層顕著となっていることから厳しさが増している。

しかしながら本年度は昨年に較べ回復傾向にある等、明るい兆候も感じられる旨、説明があった。

(各委員からの意見)

沼田氏：1級試験のスケジュールが年1回に限られている現状はかなり厳しいのでは。

浅古氏：専門学校としては在学中に全員合格を目指して欲しい。

不合格となった場合のストーリーを提示し危機感を植え付ける等、抜本的改革が必要なのではないか。

北澤氏からは、社としての資格取得に向けた取り組みやディーラー資格取得の必要性について実情が語られた。

伊藤氏：取得資格により給料が変わってくる現状を伝えていく必要もあるのでは。

④第4号議案：平成30年度事業計画概要について【資料B】

・山口より学生募集に関する課題について説明があった。

本年度のオープンキャンパス参加者は昨年度を上回っている。

留学生について、中野校ではネガティブなイメージを抱く教員は見当たらず、校としての受入土壌は出来上がっている。

本年度の留学生の見学者数は昨年同等であり、これ以上、増員しようとする計画はない。

校としては、今後、より優秀な留学生を取り込んでいきたいと考えている。

- ・教務課題として、カリキュラムポリシーの作成に取り組んでいる。
- ・その他課題として、昨年度は交通事故の発生件数が多かったことから中野警察の協力を得て改善に取り組んでいく所存である。

・事業計画・数値目標について

就職：1級、2級ともに8月末100%を目標に取り組んでいる。なおエンジンメンテナンス科ではレース業界を希望する学生もおり時期的な問題から除いている。

ディプロマポリシーを作成し卒業生像の明確化に努めている。【資料D】

募集：見学出願について昨年比増を目標として取り組んでいる。

入試方法が変わり、いろいろな生徒に合わせた入試改革に取り組んでいる。

AO入学等、自分にあった学校選択が求められている。

教務：カリキュラムポリシーは来年度公開予定である。

年間スケジュールについて、学園祭での採点に関しては前年に倣い、本年度も各委員への協力をお願いしたい旨、要請があった。

・学校の現状について（各委員との意見交換）

山口：留学生の就職内定が遅れている。

北澤氏：本年度入学の留学生比率は高いのか？

山口：全体の4割程度であり、この水準を維持していく計画である。

世田谷校と品川校にはまだ受入余地があり、そちらへのシフトも考えている。

浅古氏：1級科の募集増に向けては、今後、校独自で1級科へと誘導できるような職業適性チェックリスト的なツールの開発が求められているのでは。

学生へのアプローチ、高校生に自分にあった職業像をいかに伝えるか、必要とされるスキルをいかに認識させるか等、1級科へのストーリーを作成しておく必要がある。日本一の専門学校となるからには、教員がその気になって爆発的にやっていく必要がある。

田中洋子氏：地域活動、学生との触れ合い等、毎年のことながら今年もお願いしたい。今年には防災に力を注いでいく方針である。

田中広美氏：息子も入学して楽しいと言っている。出身高校からの入学は初めてであり、進路決定時に高校の担任からも大学との比較で懸念を抱かれていたが、本人が決めたことであり幸せなことと思う。来て良かったと思っている。いろいろと勉強させていただきたい。

伊藤氏：エンジニアは目的意識があり営業としても期待が持てる。大学との違い等、見せ方の工夫も必要なのは。例えば1級取得後の給料の変遷等。

トヨタの場合、レクサスでのエンジニア希望が多く、それに向けて意識を持って行っている。大学生とは違い目的を持っているので、もっと期待できるのでは。

北澤氏：メカニックは全職種を経験できる。企業活動が円滑に進む上では必要不可欠な人材であり、社としても協力していきたい。

沼田氏：採用時には将来ビジョンについて聞いているが夢を語ることが出来る。卒業時には既に夢を持っている人も多いので期待が持てるのでは。

次回会議でH30年度事業計画の進捗報告をすることで全委員の承認を得た。

6. 事務連絡

次回開催日の確認

- ・平成30年度 第2回学校関係者評価委員会開催日程について
平成30年11月2日（金）開催予定で委員全員の確認を得た。

7. 閉会

以上

会議風景

